

放課後等デイサービス事業所での支援・活動のアイデア

農作業活動 ～「たねまき」編～

農作業は、自然と触れあうことができたり、自分で作った作物を食べる楽しみがあったり、植物の成長について知ることができたり、子ども達と一緒に汗をかきながら体験を共有できたりと様々なメリットがあります。

また子ども一人一人の発達に合わせて支援していく上でも、農作業には、作業種も様々あり、個に合わせた活動を計画しやすい利点もあります。更に、草花や野菜などの園芸植物や身の回りにある自然との関わりを通して身体の健康、社会生活における健康の回復を図るなど農作業には多くの効果を期待できます。事業所で畑などの場所を確保できるのであれば、ぜひ取り組んでいただきたい活動です。

今回は、秩父学園で行っている農作業活動の「たねまき」での支援方法についてご紹介し、子ども達が農作業のやり方を理解し、楽しさを味わえるようにするための工夫についてご紹介したいと思います。



～「たねまき」編～

“ねらい”の設定

一人一人に合った“ねらい”を決める

“ねらい”を決めることで、その子に対する支援の軸が決まり、作業課題の難易度や役割、楽しみなど農作業に求めるものが見えてきます。

“ねらい”の設定は、非常に重要な手続きなので、スタッフでよく話し合い、最適なものにしましょう。

ねらいの例

- ・作業工程を理解する
- ・植物の育て方について知る
- ・植物を育てる楽しさを味わう
- ・興味関心を広げる
- ・道具の使い方を知る
- ・収穫した作物を食べる喜びを知る 等

環境設定の目的

自分の作業スペースを明確にする

作業スペースを分かりやすくするために、顔写真を提示したり、プリンターを使用したりすることで、一目で自分の場所が分かるため、戸惑うことなくスムーズに作業が行えます。

また、収穫した農作物の置き場所を提示することで、最後の工程まで見通しを持って自立的に取り組むことができます。



種をまく場所を明確にする

畝やプランターのどこに種（または苗）を植えるのかが分かりやすくなるように目印やマルチを付けることで、自立的に作業できるようにします。



手順書の使い方

手順書の有効性

畑の作業には、穴を掘る・種（球根）を植える・土を被せる・水をやる等、細かい手順が多々あります。ひとつひとつの工程に絵や写真を使い視覚的に提示することで、自立的に作業ができるよう支援を行っています。

お子さんに応じて工程数を減らす等して、難易度にも配慮をしています。

また、手順書はご本人の見えやすい位置に置くことで自立度を高めています。

こまつな の うえかた	
1	 せんせいの みほん
2	 ながいやまをつくる
3	 あなを あげる
4	 たねを まく
5	 つちを かぶせる
6	 みずを かける

図1 たねまき全行程V r e. 手順書

たねのうえかた	
1	 あなを あげる
2	 たねを まく
3	 つちを かぶせる

図2 たねまき省略V r e. 手順書

作業を簡単にするアイデア

アイデア① 上手に土を掘る

土を上手く掘れない、穴をどれくらい掘っていいかわからないお子さんでも、土にペットボトルを刺すだけで簡単に穴を掘ることができます。穴を掘る深さは、印をつけて調整することができます。



100ml程度のペットボトル
にテープで印をつける

アイデア② 種に土をかぶせる

穴に種を植えたはいいが、どれくらいの量をかぶせたらいいかわからないお子さんでも、予め土を容器に入れて用意しておくことで、簡単に土をかぶせることができます。



コラム

収穫したら、やっぱり焼き芋だね

サツマイモは裏切らない！！多少の悪天候の中でも、ぐんぐん成長してくれます。

つるをつかんで思いっきり引っ張ると、大きなお芋がいくつも連なって、ごろごろと顔を見せてくれる・・・のは、隣の人ばかり・・・ぼくのつるにはちっちゃなお芋ばかり・・・どうして・・・なんて嘆いていた人もいましたが(^o^)

今日は、いよいよ焼き芋の日！濡らした新聞紙とアルミホイルをサツマイモに巻いたら、トングをつかんで、そっと(?) 焚き火の中に入れます。一掴みの落ち葉をかけて、「美味しく焼けますように♪」とおまじない。

さあ、焼き芋が出来上がりました！ ほくほく、もぐもぐ、あま〜い！これが、畑作業の醍醐味ですね~(*^_^*)

それにしても、やっぱり、隣の人のお芋は大きい・・・来年の収穫が楽しみだな〜。



図3 やきいものおやくそく手順書